第２章

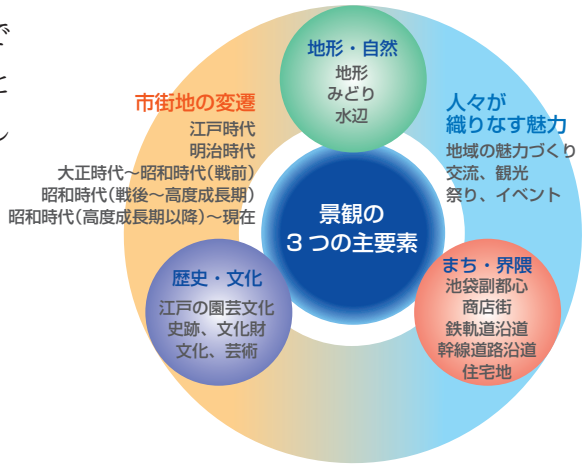
豊島区の景観特性

2

第１　景観の構成要素

豊島区の景観特性を把握するにあたり、現在の景観に大きく影響している市街地の変遷や景観の主要素である「地形・自然」、「歴史・文化」、「まち・界隈」とともに、「人々が織りなす魅力」の視点を加えて整理します。

図表 2-1　景観の構成要素



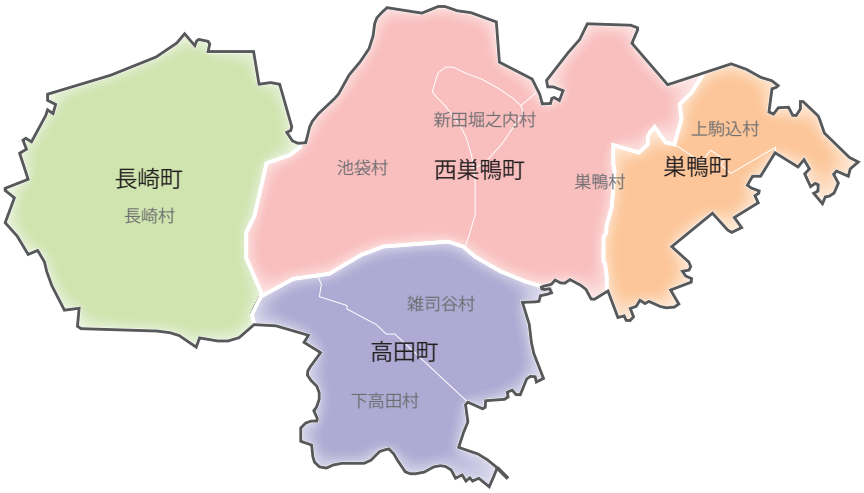
第２　市街地の変遷

１　豊島区の誕生

江戸時代、現在の豊島区付近一帯は武蔵国豊島郡に位置し、上駒込村、巣鴨村、雑司谷村、下高田村、長崎村、新田堀之内村、池袋村の７村で構成されていました。

明治時代以降、豊島郡の北部が東京府北豊島郡とされ、巣鴨町、西巣鴨町、高田町、長崎町となりました。その後、昭和７（1932）年10月1日にこの４町が合併し、現在の豊島区が形成されます。

図表 2-2　江戸時代の村域と明治時代以降の町域



資料：豊島郡の村絵図をもとに作成

2　市街地の変遷

（1）江戸時代

当初、現在の豊島区付近一帯はほぼ全域が農村地帯で、江戸と地方を結ぶ中山道[12]や清戸道[13]（現在の目白通り等）沿いなどに街道集落、鬼子母神周辺などには門前町が形成されていきます。

17世紀後半には、中山道沿いの巣鴨、日光御成道沿いの駒込、目白通り沿いの高田の一部が町場としてにぎわいました。

図表 2-3　清立院・日観堂・請雨松・宝城寺

資料：2010年度企画展豊島郡の村絵図（豊島区立郷土資料館・平成22（2010）年10月）

（2）明治時代

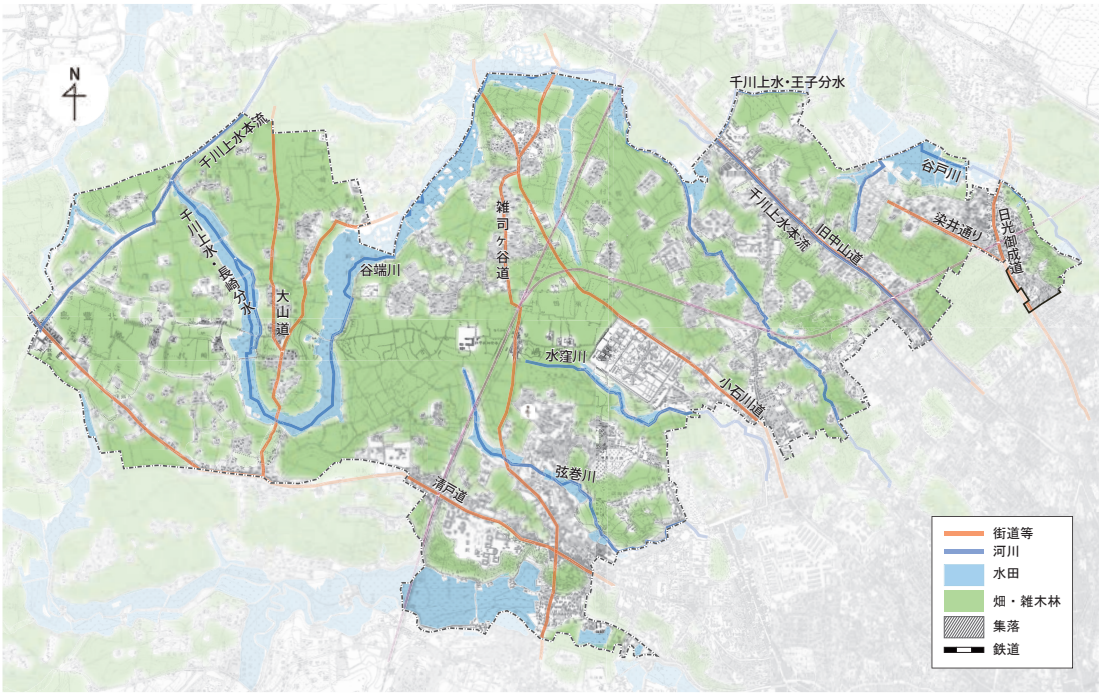
明治時代のはじめ、現在の豊島区付近一帯は、ほとんど市街化していませんでした。

鉄道は、明治18（1885）年に目白駅、明治36（1903）年に池袋駅、大塚駅、巣鴨駅、そして、明治43（1910）年に駒込駅がそれぞれ開業しました。

明治初期に染井霊園と雑司ケ谷霊園が立地し、中期には石川島監獄（後の巣鴨プリズン）が巣鴨（現在のサンシャインシティ）に移転しました。また、後期になり東京府立尋常師範学校（後の豊島師範、東京学芸大学）や学習院が移転して開設されるなど、教育施設の立地が進みます。

東京市区改正事業[14]により、東京中心部では道路の拡張などが進み、旧東京市内から現在の豊島区付近一帯に寺院や墓地が移転してきました。

図表2-4　明治42（1909）年の地形図



資料：国土地理院発行1万分の1地形図等を複製（国土地理院長承認番号：平24関複第169号）

12　**中山道**：江戸時代に整備された五街道の一つ。豊島区内では白山通り。眞性寺門前から始まる地蔵通り商店街が元の中山道

13　**清戸道**：現在の目白通りから長崎２丁目の二又交差点より光和通りに入り、千川通りにつながる道。清戸の農産物や練馬大根を江戸へ運ぶ輸送路となっていた

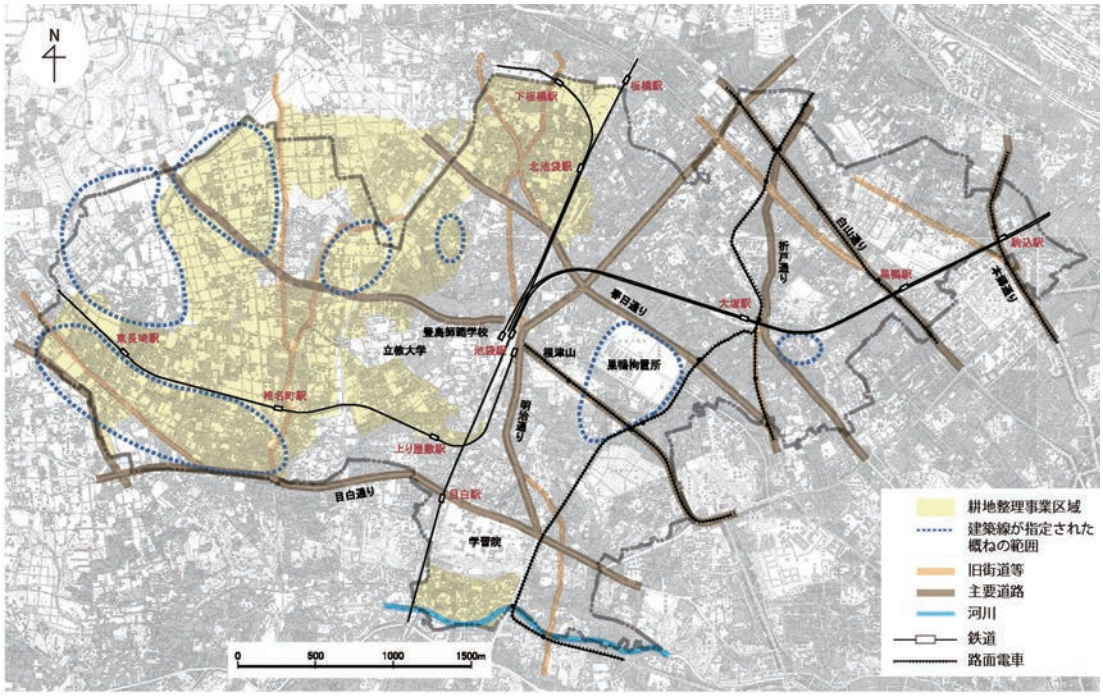
14　**東京市区改正事業**：明治21（1888）年に制定された日本で最初の都市計画法といわれる東京市区改正条例に基づく、都心部の道路拡幅や上水道の整備などの都市基盤整備事業

（3）大正時代～昭和時代（戦前）

大正時代になり、現在の豊島区付近一帯の市街化も進み、様々な都市基盤が整備されます。東京市電（路面電車）が大塚駅まで延長したほか、池袋駅では、東上鉄道（現東武東上線）、武蔵野鉄道（現西武池袋線）が相次いで開通します。道路は、本郷通り、白山通り及び春日通りなどの拡幅や、明治通り、目白通り及び立教通り等の整備が進みました。

ＪＲ山手線の沿線にあたる巣鴨町、西巣鴨町、高田町などでは、大正時代から昭和初期にかけて人口が急激に増加しました。長崎町では、関東大震災を契機に急速に市街化が進みました。道路の拡充や住宅の急増とともに、谷端川、弦巻川などの河川が次第に暗渠[15]となりました。

図表2-5　昭和12(1937)年の地形図



資料：国土地理院発行1万分の1地形図等を複製（国土地理院長承認番号：平24関複第169号）

（4）昭和時代（戦後～高度成長期）

昭和20（1945）年、第二次世界大戦の空襲を受けて、区の約７割が焼け野原となりましたが、西部地域にあたる長崎、千早、要町、高松は大きな被害を受けませんでした。

戦後、戦災復興事業として、環状６号線付近から東側の区域では土地区画整理事業が都市計画決定されましたが、事業が実施されたのは旧国鉄駅周辺の７地区のみです。この時に整備された都市基盤は、その後の都市化で大きな役割を果たし、現在もほぼそのまま残されています。

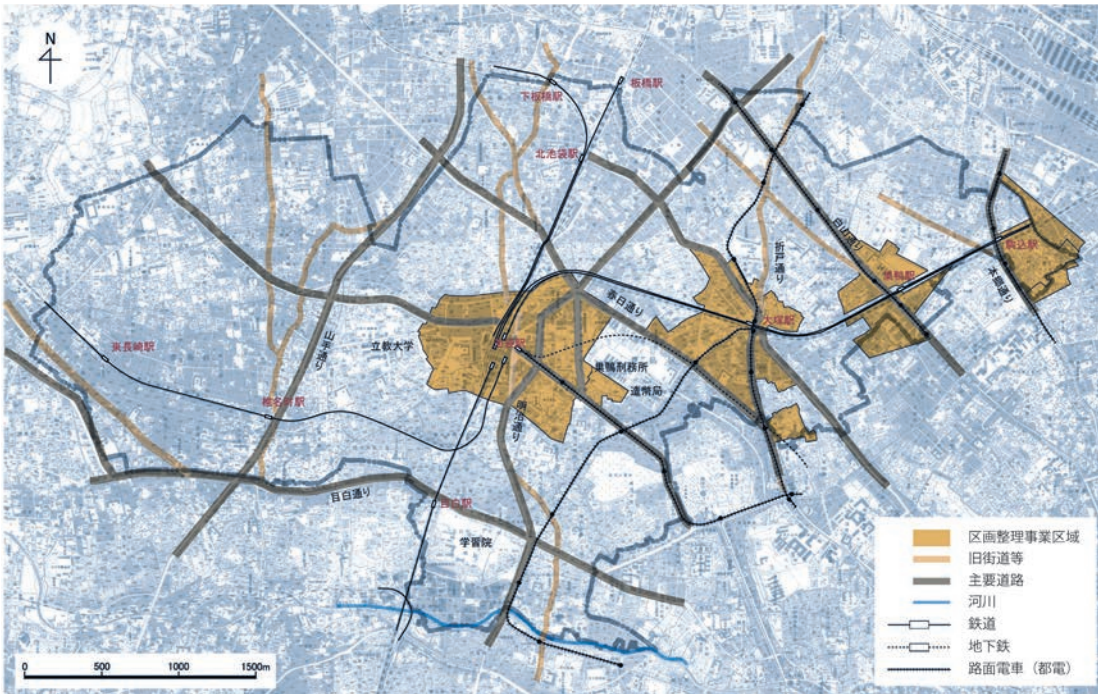
昭和30（1955）年代、日本は高度成長期を迎えます。豊島区は、都心に近く、交通利便性が高いことから人口の集中や産業の集積が急激に進みました。

昭和35（1960）年、首都圏整備法[16]に基づき、池袋は新宿、渋谷とともに「副都心」に位置づけられ、昭和40（1965）年以降の高度成長期には商業機能の集積が一層進みました。

15　**暗渠**：河川の地下化や覆うことで外から見えなくなった水路
16　**首都圏整備法**：首都圏の整備に関する総合的な計画を策定し、その建設と秩序ある発展を図ることを目的とした法律

都市基盤が整備されなかった地域では、地方から大量に流入する若年労働者の住宅需要の受け皿として、概ね戦前のままの土地に木造賃貸アパートが建てられていきます。

図表2-6　昭和32(1957)年の地形図



資料：国土地理院発行1万分の1地形図等を複製(国土地理院長承認番号：平24関複第169号)

（5）昭和時代（高度成長期以降）～現在

高度成長期以降、昭和53（1978）年にサンシャインシティが開業し、平成２（1990）年には東京芸術劇場が開館するなど文化・交流施設の集積が進み、池袋副都心は急速に発展します。一方で、鉄道駅周辺は、住宅地の中に事務所や店舗、マンションなどの混在が進み、幹線道路沿道では中高層ビルやマンションが増加しました。平成20(2008)年の東京メトロ副都心線の開通、平成25(2013)年の東急東横線・みなとみらい線との相互運転開始により、埼玉県や神奈川県から池袋副都心へのアクセスが向上し、さらに利便性が高まっています。

その後、池袋副都心では、豊島区本庁舎の移転を契機として、平成27（2015）年に新庁舎を含むとしまエコミューゼタウンが完成し、旧庁舎跡地には令和2（2020）年にHareza池袋が開業しました。

また、平成26（2014）年にリニューアルした南池袋公園をはじめとし、令和1（2019）年には池袋西口公園と中池袋公園がリニューアルオープン、令和2（2020）年には造幣局跡地にイケ・サンパーク（としまみどりの防災公園）が完成し、４つの公園を中心とした官民連携による新しいまちづくりが進んでいます。

第３　地形・自然、歴史・文化、まち・界隈

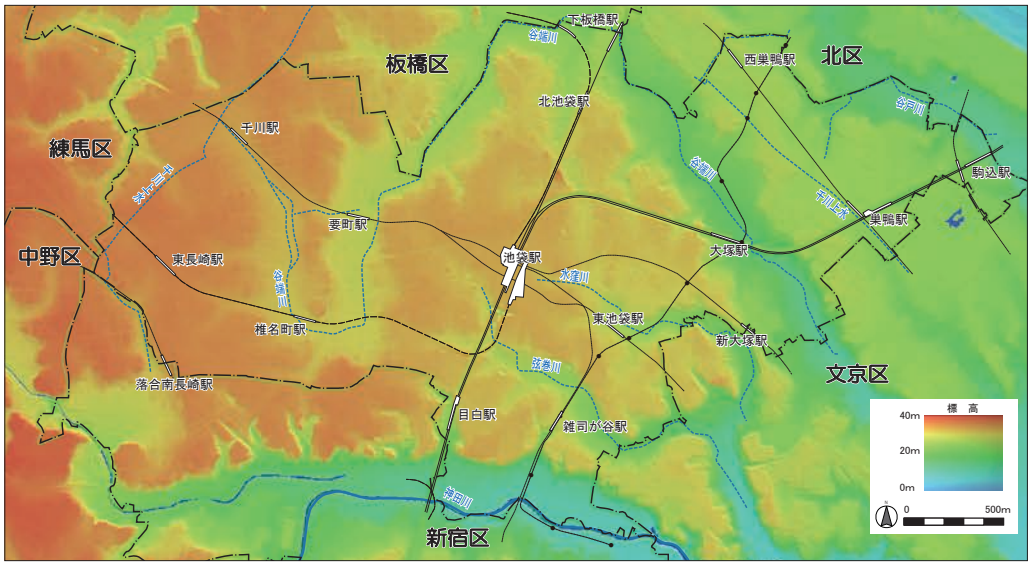
１　地形・自然

（1）地形

○豊島区は、北を荒川、南を多摩川に挟まれた武蔵野台地の東端に位置し、神田川、谷戸川（谷田川）、弦巻川、谷端川などの流れによって削られた台地と複雑な谷が織りなす変化のある地形です。

○特に、神田川周辺や現在では暗渠となっている谷戸川周辺は、坂道が多く、地形の豊かな表情を感じることができます。

図表 2-7　標高等高線図



資料：基盤地図情報数値標高モデル（国土地理院）をもとに作成

（2）みどり

○区内では大規模なみどりは少なく、染井霊園、雑司ヶ谷霊園、学習院、立教大学は貴重なまとまりのあるみどりです。

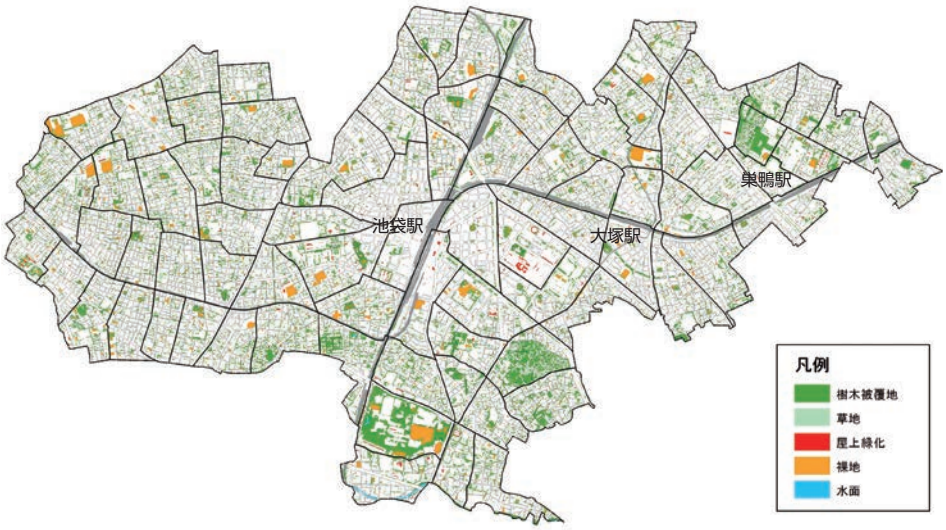
○池袋駅、大塚駅及び巣鴨駅周辺では緑被分布が少なく、住宅地では小規模な緑被が分布しています。こうした中でも、池袋駅東口のグリーン大通りや西口の劇場通りは風格ある並木道が形成されています。

○駒込や巣鴨、雑司が谷地域では、江戸時代から続く寺社のみどりが残され、現在でも人々に親しまれています。

○門と蔵のある広場や池袋本町電車の見える公園、南長崎スポーツ公園など、地域の特性を生かした個性ある公園が整備されています。

○桜、バラ、梅、紫陽花、藤、椿など季節の花々がまちに彩りを添え、染井霊園や神田川の面影橋、法明寺などは桜の名所となっています。

図表 2-8　緑被分布図



資料：豊島区みどりの基本計画（平成28（2016）年3月）

（3）水辺

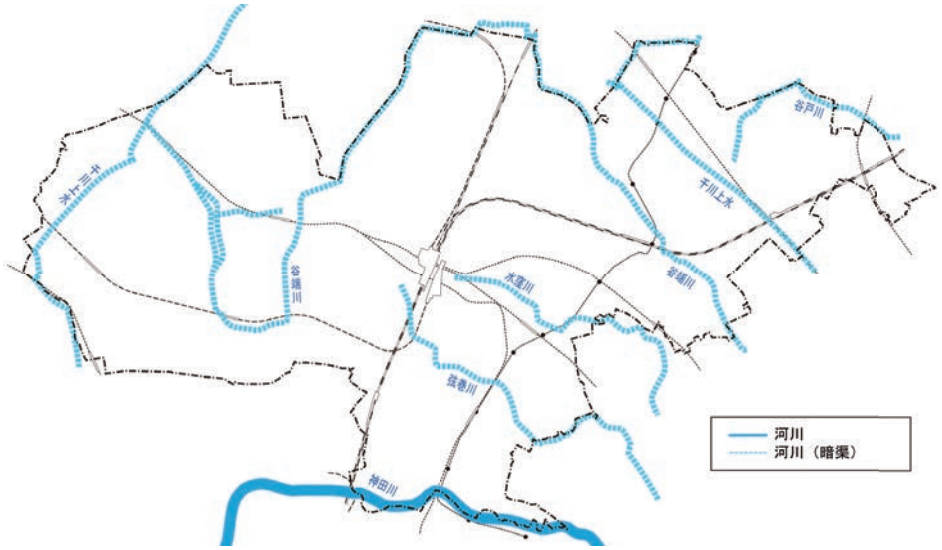
○区内で水面を見られるのは新宿区との境を流れる神田川のみであり、谷端川、弦巻川、谷戸川（谷田川）、千川上水などの河川や用水路は暗渠となっています。

○近年、神田川は水質改善が進み、アユが遡上し、ドジョウが生息するなど区内の貴重な水辺となっています。

○暗渠となった河川・用水路においても、谷端川緑道や千川親水公園など緑道や公園として一部が整備されています。

○「霜降橋」のように、かつての橋の名称が交差点名に付けられるなど、現在もその名残が息づいています。

図表 2-9　河川・水路図



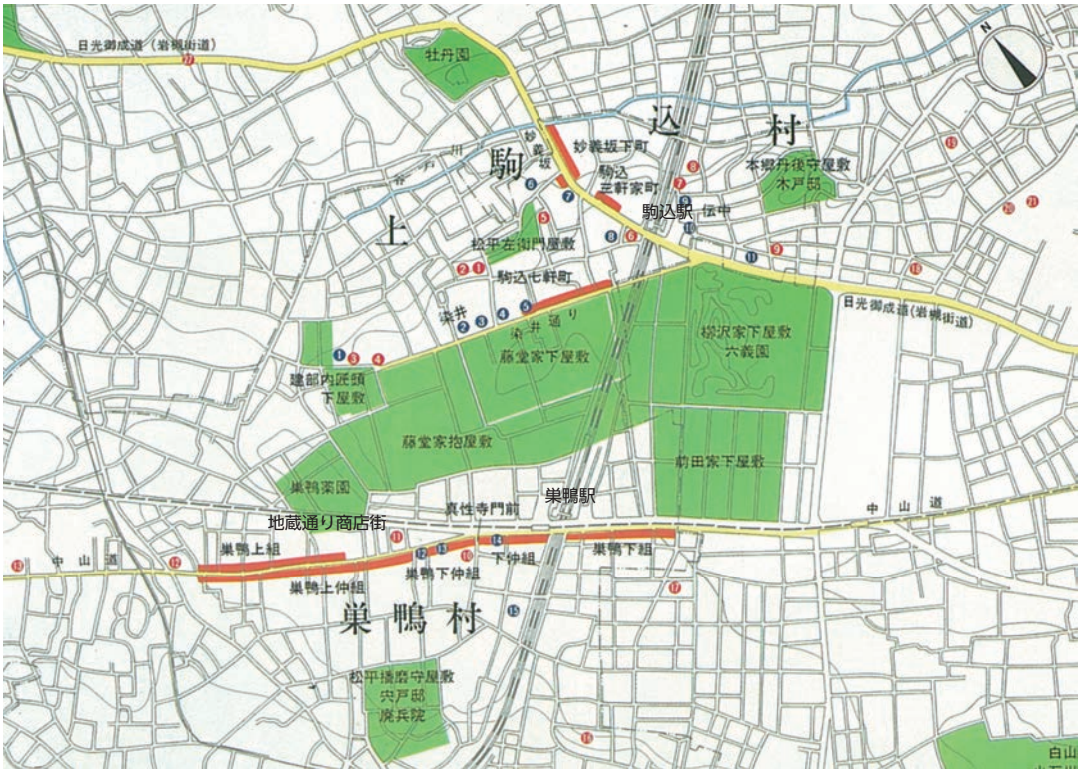
2　歴史・文化

（1）江戸の園芸文化

○江戸時代、駒込地域はソメイヨシノ[17]を生み出し、つつじを広めた園芸文化が花開き、世界でも屈指の規模を誇る園芸都市でした。

○万延元年（1860年）に来日したイギリスの植物学者ロバート・フォーチュン[18]は、駒込村染井の植木屋の様子を著書「江戸と北京」の中で、『村全体が多くの苗樹園で網羅され、それらを結ぶ一直線の道が１マイル（約1.6ｋｍ）以上にも続く。私は世界のどこへ行ってもこれほど大規模な売り物の植物を栽培しているのを見たことがない。』と記しています。

図表 2-10　駒込・巣鴨の園芸地図（江戸～明治期）



資料：常設展図録（豊島区立郷土資料館・昭和59（1984）年）
※図中の青丸は主な植木屋の位置、赤丸は植木屋ゆかりの遺跡などの位置を示す

（2）史跡、文化財

○染井霊園と雑司ヶ谷霊園は、故人を偲ぶ静謐[19]で品格ある空間としての機能を保ちながら、自然資源を生かした安らぎと潤い、さらに霊園の歴史的資源に触れることができる場所となっています。

○高岩寺（とげぬき地蔵尊[20]）や鬼子母神など、それぞれの地域の歴史や伝統を現在に伝える寺社や史跡があります。

○江戸時代から市街地の様子は大きく変化していますが、旧街道の中山道や鎌倉街道などは現在でも幹線道路や生活道路として残っています。

17　**ソメイヨシノ**：桜の一種。オオシマザクラとエドヒガンとの雑種で木の生長が早く各地で栽植される。江戸時代の終わり、染井の植木屋から全国に広がった

18　**ロバート・フォーチュン**：スコットランドの植物、園芸学者。珍しい植物を探して世界を旅したプラント・ハンター。1860年、1861年に来日し、日本の百合や菊などをヨーロッパに紹介

19　**静謐（せいひつ）**：静かで穏やかな様子

20　**とげぬき地蔵尊**：高岩寺の本尊、延命地蔵菩薩。病や心の刺を抜くということで、多くの参詣者が訪れる

○区内には大学や専門学校が数多く立地していますが、特に立教大学は東京都選定歴史的建造物[21]である本館（モリス館）や立教学院諸聖徒礼拝堂など、学習院には国登録有形文化財[22]に指定されている正門や北別館、東別館などがあります。

○アメリカ人建築家フランク・ロイド・ライト[23]が設計した自由学園明日館（国指定重要有形文化財）や、宣教師マッケーレブが建てた雑司が谷旧宣教師館などの貴重な西洋建築物が保存されています。

図表2-11　学習院　南1号館

（3）文化、芸術

○昭和初期、西池袋地域から長崎地域にかけてアトリエのある借家が立ち並んでいたことから、詩人の小熊秀雄はパリのモンパルナスにちなんで「池袋モンパルナス[24]」と名付けました。

○昭和30（1955）年代、若き日の手塚治虫、石ノ森章太郎、赤塚不二夫などが創作活動に勤しみ、日本のマンガ文化の出発点となった「トキワ荘」がかつて存在し、現在でも「紫雲荘[25]」が残っています。令和2(2020)年７月には、トキワ荘を再現した「トキワ荘マンガミュージアム」が開館しました。

○明治40（1907）年に創立された東京音楽大学をはじめとして、区内には７つの大学のキャンパスがあります。

○池袋駅と大塚駅周辺を中心として、劇場や演劇スタジオが数多く点在するとともに、多くの俳優を輩出した舞台芸術学院や著名な劇団もあり、演劇のまちとなっています。

○様々な文化的資源が戦災や急激な都市化などによって失われていく中で、その記憶の一部はモニュメントやギャラリーなどとして残されています。

○区の将来都市像である「国際アート・カルチャー都市」の実現に向け、多彩な文化芸術施設の集積を活かし、人々の交流の舞台となる新たな拠点を整備しています。

図表 2-12　熊谷守一美術館

画像提供：熊谷守一美術館

図表 2-13　区内７大学

図表 2-14　池袋西口公園に新たに整備された野外劇場「GLOBAL RING」

21 **東京都選定歴史的建造物**：東京都景観条例に基づき、歴史的な価値を有する建造物（歴史的建造物）のうち、景観上重要であるとして東京都景観審議会の答申と所有者の同意を得て都が選定した建築物

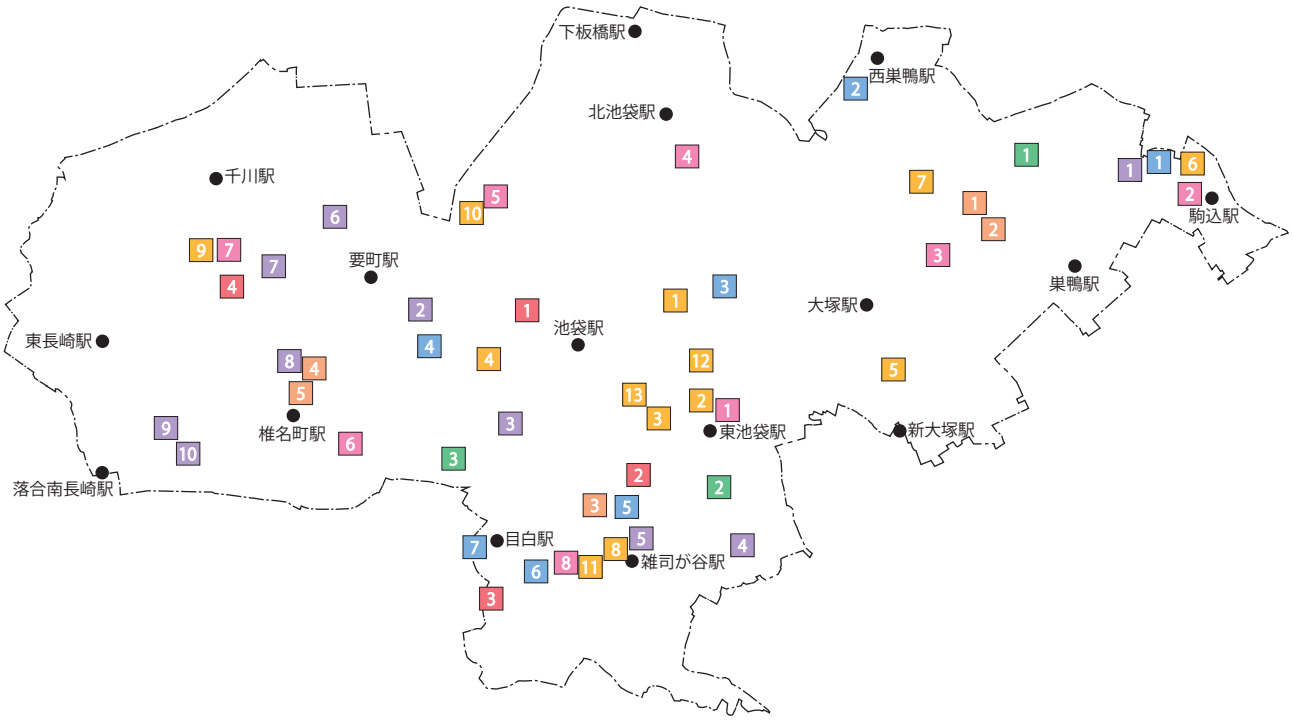
22 **国登録有形文化財**：建造物、工芸品、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など有形の文化的所産で、歴史上、芸術上、学術上価値が高く、国が登録した有形文化財

23 **フランク・ロイド・ライト**：「近代建築の三大巨匠」と呼ばれるアメリカの建築家。日本国内の作品は、帝国ホテルや自由学園などがある

24 **池袋モンパルナス**：大正末期から終戦頃にかけて、豊島区の西池袋、椎名町、千早町、長崎、南長崎、要町周辺を拠点としていた芸術家たちによる文化や芸術活動の総称

25 **紫雲荘**：赤塚不二夫が部屋を借りた、トキワ荘そばのアパート

図表 2-15　主な文化資源の分布



文化芸術拠点

1 Hareza池袋
2 あうるすぽっと
3 豊島区本庁舎
4 東京芸術劇場、池袋西口公園「GLOBAL RING」
5 南大塚地域文化創造館（南大塚ホール）
6 駒込地域文化創造館
7 巣鴨地域文化創造館
8 雑司が谷地域文化創造館
9 千早地域文化創造館
10 みらい館大明
11 としまアートステーション「Z」
12 サンシャインシティ
13 シアターグリーン

図書館・書店

1 中央図書館
2 駒込図書館
3 巣鴨図書館
4 上池袋図書館
5 池袋図書館
6 目白図書館
7 千早図書館
8 雑司が谷図書貸出コーナー

文化財・史跡

1 旧丹羽家腕木門、住宅蔵
2 旧江戸川乱歩邸
3 自由学園明日館
4 雑司が谷旧宣教師館
5 並木ハウス
6 すずめが丘アトリエ村跡
7 つつじが丘アトリエ村跡
8 さくらが丘パルテノン跡
9 トキワ荘マンガミュージアム
10 紫雲荘

大学

1 女子栄養大学
2 大正大学
3 帝京平成大学
4 立教大学
5 東京音楽大学
6 学習院大学
7 川村学園女子大学

寺社

1 高岩寺
2 眞性寺
3 雑司が谷鬼子母神
4 長崎神社
5 金剛院

美術館・博物館

1 エチカ池袋ギャラリー
2 みみずく資料館
3 切手の博物館
4 熊谷守一美術館

霊園・庭園

1 染井霊園
2 雑司ヶ谷霊園
3 目白庭園（赤鳥庵）

3　まち・界隈

（1）池袋副都心

○東京芸術劇場、Hareza池袋、あうるすぽっと、サンシャイン劇場など、多彩な文化芸術施設が集積しています。

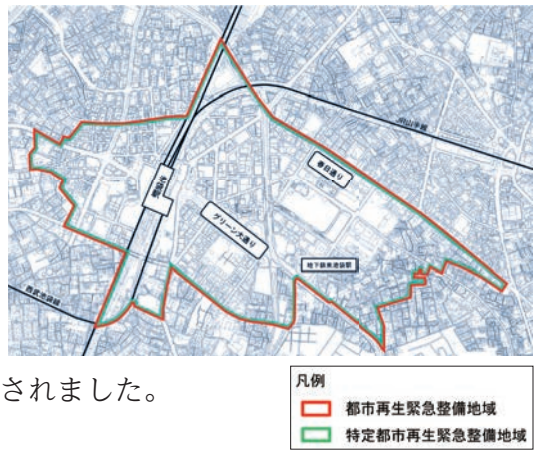
○グリーン大通りでは、オープンカフェが実施され、みどりの木陰で憩い、マルシェで新鮮な野菜などを買い求める人などによって、にぎわいある風景が生まれています。

○商業施設や文化芸術施設などを結ぶ主要な通りは、ショッピングや遊びなどで訪れる人々でにぎわっています。

○サンシャイン60通りやアニメショップが並ぶ乙女ロード[26]など、新たな文化を発信するエネルギーにあふれた人々が集い、楽しむ姿が池袋副都心の特徴ある表情となっています。

○池袋駅周辺地域は、東京都心・臨海地域、品川駅・田町駅周辺地域、新宿駅周辺地域、渋谷駅周辺地域などとともに、特定都市再生緊急整備地域[27]に指定されました。

図表2-16
特定都市再生緊急整備地域（池袋駅周辺地域）



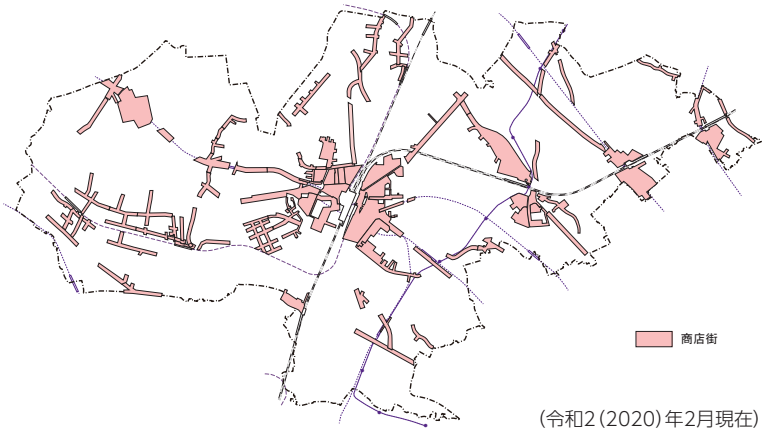
（2）商店街

○区内には約90の商店街があり、地域コミュニティに密着した商業やサービスを提供しています。

○鉄道駅周辺の商店街は、区内外から人々が訪れ、地域の人々が活発に交流する拠点となっています。

○巣鴨地蔵通り商店街では、全国から多くの人々がとげぬき地蔵尊（高岩寺）や江戸六地蔵尊（眞性寺）などを訪れ、にぎわう風景が文化庁による「採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観[28]」の重要地域にあげられています。

図表 2-17　商店街の分布状況



（令和2（2020）年2月現在）

図表 2-18　巣鴨地蔵通り商店街

26　**乙女ロード**：マンガ・アニメのキャラクターグッズなどを扱う女性向けの専門店やカフェが集まる池袋駅東口周辺エリア

27　**特定都市再生緊急整備地域**：社会情勢の変化に対応した都市再生を図るため、平成14（2002）年に施行された都市再生特別措置法において、円滑で迅速な都市開発事業等により緊急かつ重点的な市街地整備を推進し、都市の国際競争力を強化する上で特に有効な地域

28　**採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観**：平成18（2006）年2月に文化庁が設置した「採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究会」がまとめた文化的景観の評価・保存・活用に関する考え方や手法、課題などの報告

（3）鉄軌道、幹線道路沿道

①鉄軌道沿道

○地上部を走る鉄道は、ＪＲ線、東武東上線、西武池袋線があり、池袋大橋から複数の電車が行き交う眺めは特徴的です。

○次々と都電が廃止となる中､都内で唯一｢三ノ輪～早稲田｣間を走る都電荒川線が残り、現在では貴重な姿となっています。

図表 2-19　都電荒川線

②幹線道路沿道

○都市の骨格を形成する幹線道路沿道は、商業・業務機能とマンションなどが立地した複合的なにぎわいを生み出しています。

○幅員が広い山手通りや要町通りなどでは、豊かな街路樹とゆとりある歩行者空間が形成されています。

図表 2-20　池袋大橋からの眺望

図表 2-21　都市づくり方針図（交通）

資料：豊島区都市づくりビジョン（令和3（2021）年4月）

（4）住宅地

○池袋副都心周辺は、都市生活を豊かにする多様な都市機能が集積し、利便性が高い都心居住を支える居住機能が充実しています。

○駒込や巣鴨、雑司が谷地域では、江戸時代からの歴史や文化が感じられる趣と親しみのある街並みとなっています。

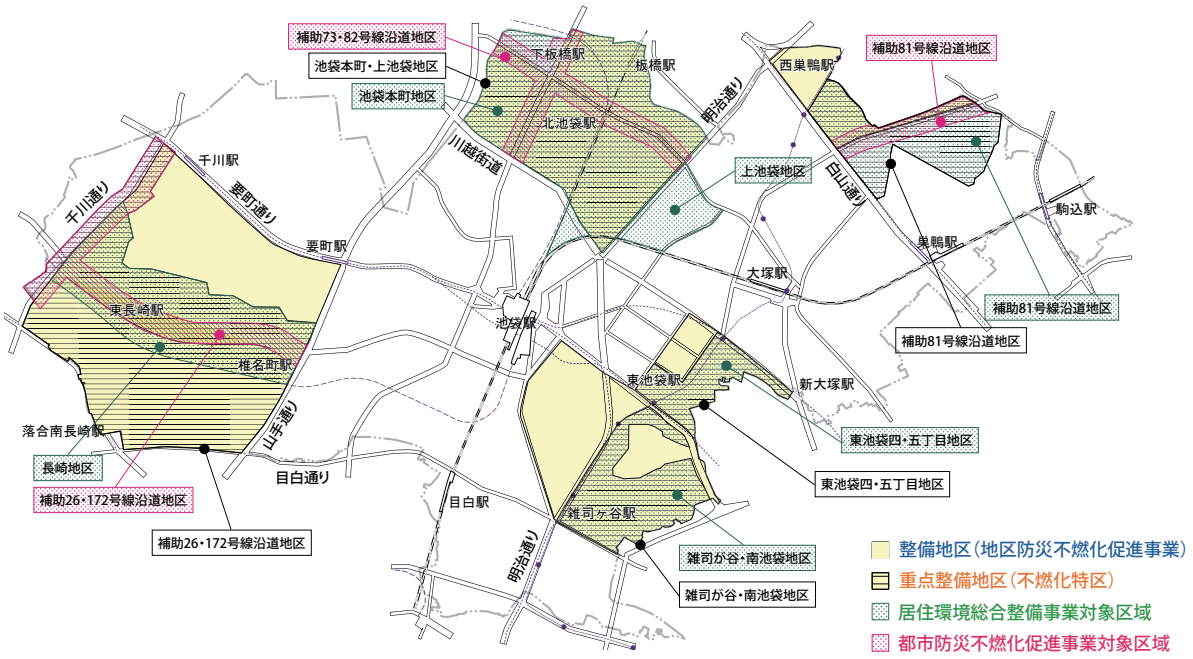
○目白や長崎、千早地域を中心に広がる低層住宅地は、みどりの潤いと落ち着きある街並みが広がっています。

○区の西部地域を中心にして、大正時代から昭和初期にかけて耕地整理[29]が実施されましたが、急速な都市化に伴い長崎、南長崎地域などでは密集市街地が形成されました。

○東京都の「防災都市づくり推進計画」の中で整備地域に位置づけられている木造住宅密集地域では、「居住環境総合整備事業[30]」など、特定整備路線の整備と密に連携した沿道まちづくり、不燃化特区制度を活用した防災まちづくりが進められています。

図表 2-22　都心居住を支えるアウルタワー（左）とライズシティ池袋

図表2-23　防災まちづくり事業の対象区域



資料：豊島区都市づくりビジョン（令和3（2021）年4月）

29　**耕地整理**：耕地整理法（昭和24(1949)年廃止）に基づき、農地の有効利用と収穫の増大を目的として、区画を整形し、水路や道路の整備により利用形態を改善した事業

30　**居住環境総合整備事業**：老朽住宅などの除却、建替えを推進するとともに、地区施設の整備を総合的に行う事業

第４　人々が織りなす魅力

１　地域の魅力づくり

図表 2-24　地域による緑化活動（池袋駅西口）

○池袋駅西口では、地域の団体や大学生などの協働による緑化活動が実施され、都市のイメージを高める取り組みが進められています。

○都電沿いのバラによる緑化活動や南長崎はらっぱ公園の運営など、地域の魅力を高める活動が展開されています。

○日本ユネスコ協会連盟[31]の「プロジェクト未来遺産[32]」に登録された雑司が谷での地域活動が示すように、歴史や文化を大切に受け継ぎ、発展させてきた土壌があります。

○平成24（2012）年11月、豊島区はWHO（世界保健機関）協働センターが推進する国際認証「セーフコミュニティ[33]」を取得し、国際的な都市としての価値を高め、地域のコミュニティや人のつながりを広げながら、生活の安全と健康の質を高めていくまちづくりを推進しています。

２　交流、観光

図表2-25　観光パンフレット（ぐるっと豊島）

図表 2-26　伝統工芸品「東京手描友禅」

画像提供：豊島区伝統工芸保存会

○区内の観光案内や情報発信の中心である観光情報センターをはじめとして、「雑司が谷案内処」や「トキワ荘通りお休み処」が設けられています。

○観光マップや散策マップなどが作成され、地域の魅力を発信し、楽しめる仕掛けづくりに取り組んでいます。

○明治時代以降、神田川付近は友禅のまちとして知られ、現在も友禅の伝統工芸士は長崎や高田界隈に多く、その他、彫金、籐工芸などの伝統工芸士が匠の技を今に伝えるとともに、豊島区伝統工芸展や伝統工芸教室が開催されています。

31　**日本ユネスコ協会連盟**：全国約300のユネスコ協会等の連合体的組織で、ユネスコ憲章の精神に則り、「世界の平和と人類の福祉」の実現を目的に、国民的ユネスコ活動を推進するNGO

32　**プロジェクト未来遺産**：長い歴史の中で先人たちの知恵や工夫によって育まれてきた日本の素晴らしい文化や自然を大切な財産として子どもたちへ残し、未来へ向けて継承していく市民活動。公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が公募・登録し、活動を支援

33　**セーフコミュニティ**：事故や犯罪、暴力、災害を予防するために、地域のコミュニティや絆を広げながら、生活の安全と健康の質を高めていくまちづくり活動

3　祭り、イベント

○現在でも、地域の中で長崎獅子舞[34]や冨士元囃子[35]をはじめとする民俗芸能が息づき、人々に親しまれています。

○高岩寺の節分会や鬼子母神の御会式[36]のように、地域の伝統を大切に受け継ぎながら今に伝えられる行事があります。

○国際的な演劇祭である東京芸術祭、ふくろ祭り[37]や東京よさこい、東京大塚阿波おどりなど、人々の熱気があふれる祭りやイベントが開催されています。

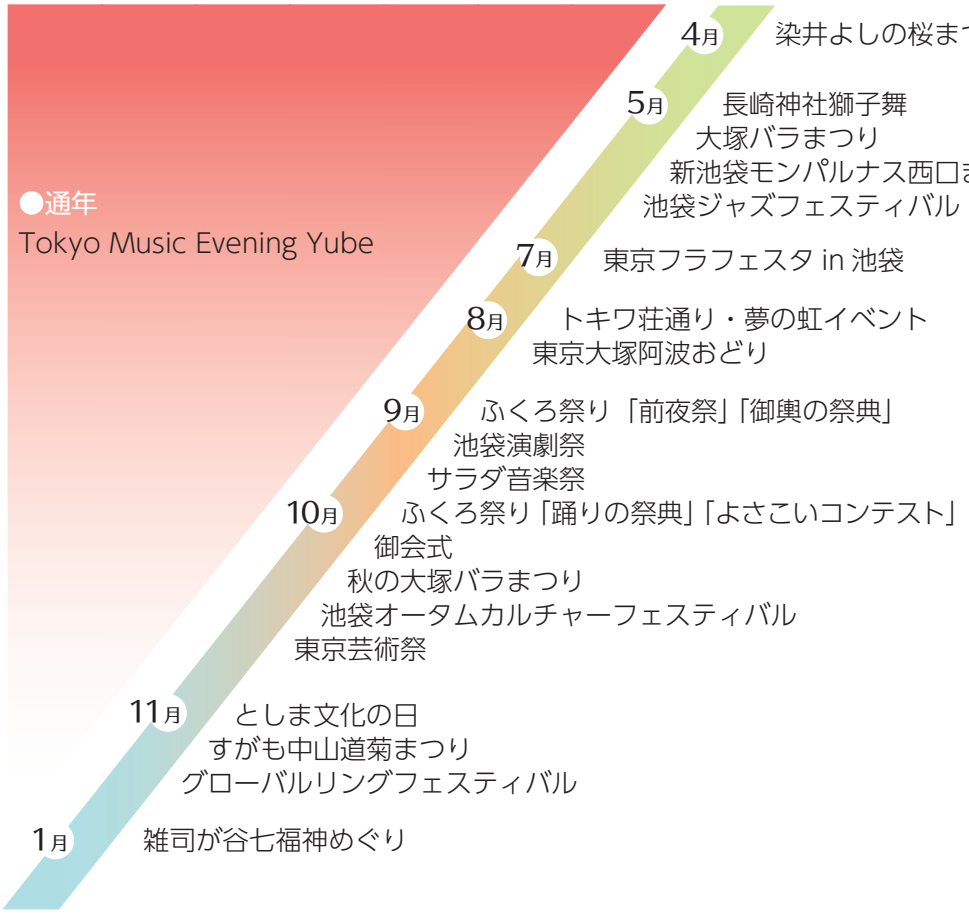
○最近では、池袋オータムカルチャーフェスティバル[38]など、サブカルチャーのメッカにふさわしいイベントが次々に開催されています。

○11月1日は豊島区独自の文化の記念日「としま文化の日」として、区内各所で様々な文化事業が展開されます。

図表2-27
雑司が谷鬼子母神御会式

画像提供：法明寺

図表2-28　主な祭り・イベント



図表 2-29　池袋ハロウィンコスプレフェス 2021

34　**長崎獅子舞**：江戸時代の元禄年間（1688年～1703年）から伝承される伝統芸能。平成4(1992)年に区無形民俗文化財に指定

35　**冨士元囃子**：明治40（1907）年頃から続く民俗芸能。平成14（2002）年に区無形民俗文化財に指定

36　**御会式（おえしき）**：江戸時代の享和・文化文政の頃から行われている伝統行事。区指定無形民俗文化財

37　**ふくろ祭り**：昭和43（1968）年に始まった祭典。「踊りの祭典」や「東京よさこいコンテスト」が開催される

38　**池袋オータムカルチャーフェスティバル**：池袋東口エリア一帯を巻き込んだフェス形式のハロウィンコスプレイベント、乙女ゲーム・アニメ・コミック・コスプレなど女の子のためのすべてが集結したアニメイトガールズフェスティバルなどを含んだイベントの総称